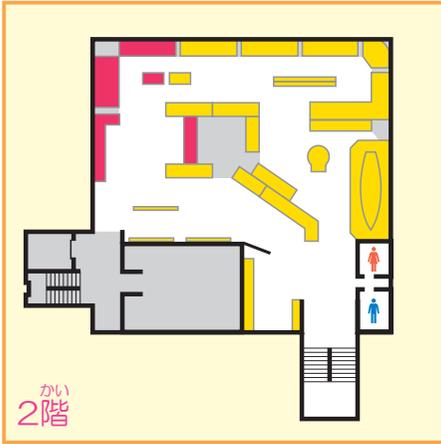


# むかし 昔のくらしを語るもの

この場所で見られます



(コーナーの名まえ)

- 農家の四季
- 講のつどい
- 宿場のくらし

農家の人は米や野菜を自分で作るので、新鮮で安全な物を食べています。今はトラクターやコンバインがあるので作業は楽になりましたが、昔は朝から晩まで働き通しでした。一日中、重たい鍬をふるったり、夜はなわをなったりしました。きびしい労働を通して、くらしの知恵や技を身につけていったの

です。庚申講や地神講とは、近所の人たちが集まって、神様や仏様を拜む行事です。ごちそうを食べて、おしゃべりを楽しむひとときでもありました。

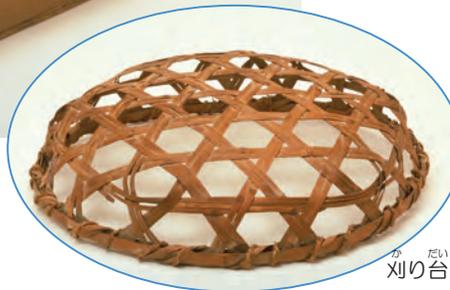


田んぼにも舟をうかべてたのか

田舟

ドブツ田といって、胸まで水につかって稲刈りするような田んぼも昔はあったんだよ。

このひっくり返したカゴは？

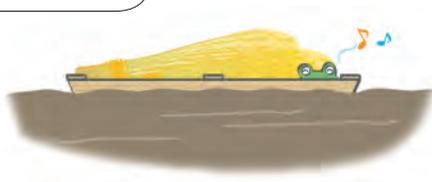
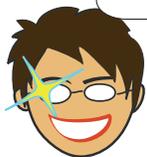


刈り台といって、これを田んぼにうかべておき、刈った稲を、泥がつかないようにこの上で束ねたんだ。

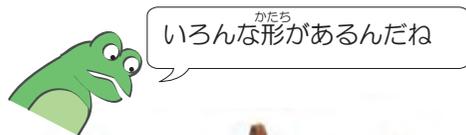
刈り台



そうして束ねた稲を田舟で運んだのね



へんなもの、のってるけど..



いろいろな形があるんだね

くわは、田んぼや畑を  
耕す道具だよ。  
土の性質や、  
使う目的によって  
使い分けていたんだ。



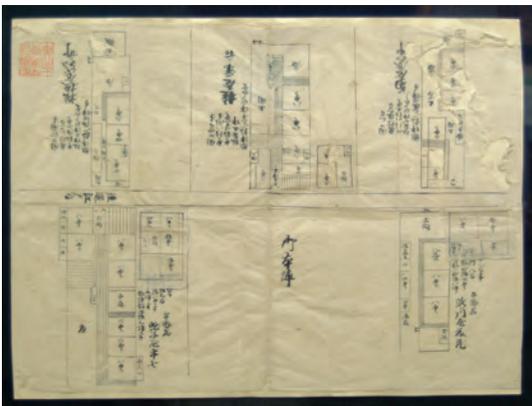
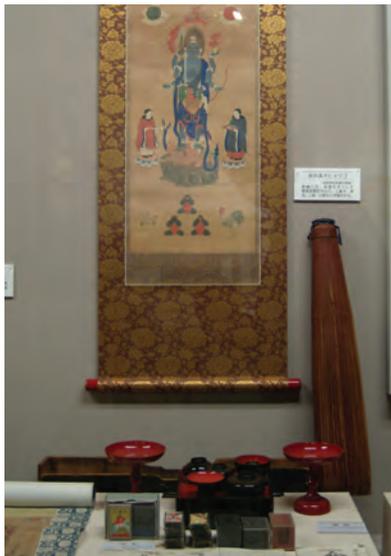
ウナイグワ

マンガクワ

サクリグワ



庚申講のときは、近所の人が集まって  
夜通しお酒を飲んで、話をしたり、  
花札で遊んだりしたんだ。  
昔はテレビも映画もないから、  
庚申講の日を楽しみにしていたんだよ。



その時代に書かれた古い文書(古文書)

からも、昔のくらしのようすがわかります。  
宿並帳や右の旅籠の絵図などからは、宿場  
のようすがうかがえます。

### ミッション 13

乾いた田んぼ(かたい土)を耕すマンガクワと、湿った田んぼを耕したり、畑のう  
ねを立てたりするときに使うサクリグワを、形の違いに注意しながらスケッチし  
てみましょう。